

1 甲状腺ホルモンとはどんなホルモンですか？

甲状腺は喉ぼとけのやや下に位置する、15～20g程度の小さな臓器です。食事に含まれるヨウ素を材料とし、全身の代謝を調節する甲状腺ホルモン（T3とT4）をつくり出します。甲状腺ホルモンは、体温や脈拍、食欲や体重、便通や新陳代謝、気分や疲労感など、全身のさまざまな代謝機能や循環機能を整える役割を持っています。甲状腺ホルモンのほか、肝機能（AST・ALT・ALP）やコレステロール値の異常で甲状腺の病気が見つかることがあります。

検査のはなし vol.13

専門医が解説する 病気の検査…14

「甲状腺の病気 (バセドウ病・橋本病)」



日本臨床検査専門医会
平山 哲

2 甲状腺機能亢進症とはどんな病気ですか？

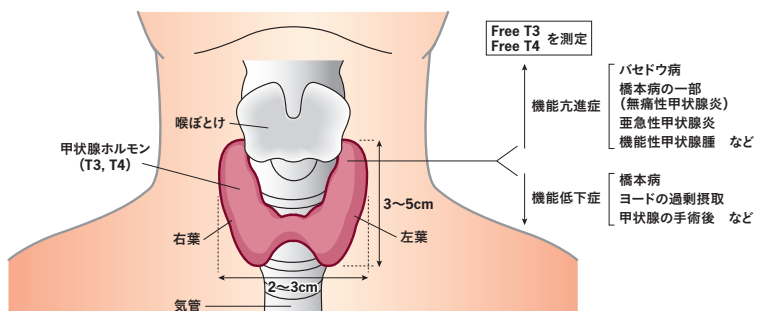
甲状腺でホルモンがつけられすぎたり、甲状腺の細胞が壊れた際に甲状腺内に蓄えられているホルモンが漏れだしたりして、甲状腺ホルモンが過剰に働きすぎる状態のことです。前者は、自己免疫異常によるバセドウ病が有名ですが、まれにはホルモンを産生する機能性甲状腺腫（プランマー病）などがあります。後者は、橋本病（慢性甲状腺炎）を背景に生じる無痛性甲状腺炎（破壊性甲状腺中毒症）や、ウイルス感染による亜急性甲状腺炎があります。

バセドウ病は、比較的若年女性に多い病気ですが、男性や高齢者でも起こります。体重減少・動悸・発汗・食欲亢進・下痢・月経不順・手の震え・甲状腺の腫れ・眼症状（複視や眼球突出）・検査値異常（コレステロール低下や肝機能異常）などがある際は、早めに医師に相談しましょう。息切れや下肢のむくみがひどいときは、甲状腺機能の亢進により、心房細動などの不整脈と心不全を起こしている可能性があるため、ただちに受診してください。バセドウ病の原因は、血液中に甲状腺ホルモンの産生を刺激する自己抗体（TSHレセプター抗体や甲状腺刺激抗体）ができるためであり、甲状腺ホルモンをつくる酵素を抑える薬（メルカゾールとチウラジール）を内服して、ホルモン合成を抑制します。薬の効果がない場合、薬の副作用で無顆粒球症を生じた場合、肝障害や蕁麻疹などの副作用で薬を飲めない場合、手術やアイソトープ治療を行います。

3 甲状腺機能低下症とはどんな病気ですか？

甲状腺ホルモンの分泌低下や作用不足によるものであり、全身の代謝の低下により、図のような症状を生じます。女性に多く、橋本病が代表的な原因です。バセドウ病と同じく自己免疫疾患であり、血液中の自己抗体が甲状腺ホルモンを作る酵素を抑えるため、甲状腺ホルモンが低下します。甲状腺機能は正常から低下を示すことが多く、甲状腺ホルモン剤を内服しますが、橋本病の病期によっては一時的に機能亢進状態となります。鑑別に迷う場合は専門医を受診してください。

甲状腺機能低下症の症状



●日本臨床検査専門医会：種々の検査を通して診断や治療に役立つ検査結果と関連する情報を臨床医に提供する臨床検査医の職能団体です。